

VSCode おすすめの理由

新里 祐教

Visual Studio Code (以降、VSCode) は2015年にリリースされてから、着実に利用者を増やしてきて、一度は触ってみたいという方も多いと思います。

技術者にとって開発環境は重要で作業効率に大きく影響します。Vi, Emacs, Visual Studio, Eclipse, ATOM, Sublime Textなど多くのソースコード・エディタがありますが、ここ数年ではVSCodeをメインで利用しているという開発者を多く見るようになりました。筆者の現場でも、全員メインはVSCodeです。筆者は数年前から、プログラミング言語開発やプロトコル・スタック、ウェブ・アプリケーション、組み込み、仮想環境の立ち上げ、資料作成など、ほとんどのことをVSCodeで行っています。

エディタの枠を超えた VSCode

● VSCodeは幅広く使える

VSCodeは軽量なエディタがベースになっています。これに多彩なエクステンションを使って開発環境を最適化したり、Gitや仮想環境との連携をしたりすることで多くの利点があります。

VSCodeはオープンソースで、GitHub上にMITライセンスで公開されています(バイナリはマイクロソフトのプロプライエタリ・ライセンス)。

ここでは、VSCodeの導入から実際に開発を行うところまで説明していきます。

● マルチプラットフォームでウェブ版もある

VSCodeはWindows, Linux, macOSに対応しています。マイクロソフトのウェブ・ページからVSCodeのバイナリをダウンロードして、インストールすればすぐに使えます。

<https://azure.microsoft.com/ja-jp/products/visual-studio-code>

他にも、機能制限はあるものの、インストール不要で使えるGitHub Codespaceや、ウェブ版でも、OSにインストールしたものと同様に利用できます。

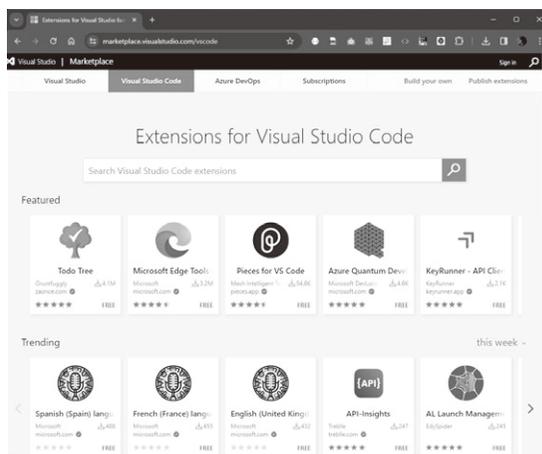


図1 VSCodeには豊富なエクステンションが用意されている

● 豊富なエクステンションが魅力

VSCodeはインストールしただけでは、ただのテキスト・エディタに過ぎません。強力なエクステンションで機能拡張をすることで、開発で実用的に使えるようになります(図1)。言語サポート、デバッガ、Linter (静的コード解析)、コード・フォーマッタ、仮想環境やクラウドといったさまざまな機能を追加できます。VSCodeで利用できるエクステンションは2024年4月時点で56,684個も公開されています。エクステンションはマイクロソフトや企業が公開しているものから、有志が作ったものまでさまざまあります。

▶インストール方法

エクステンションは図2の画面左のアイコンから検索してインストールできます。このアイコンはVSCodeをインストールした直後から表示されています。また、インストールされている一覧を確認したりアップデートしたりできます。

▶開発環境に合わせて使い分けられる

個々のニーズ・開発ターゲットに合ったエクステンションを入れることで最適な開発環境を構築できるというわけです。例えば筆者の場合は、次のようなエク